

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101825		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	大森台ケアセンターそよ風(かすみ)		
所在地	千葉市中央区大森町250-1		
自己評価作成日	平成23年1月21日	評価結果市町村受理日	平成23年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12 みゆきビルbizcube 7F		
訪問調査日	平成23年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

センターの理念は利用者様と一緒に考えた「希望を実現しよう」であり利用者様の希望に沿うように取り組んでいる。毎日の散歩、外出、季節行事等で外出に機会を多く設けている。自治会に参加する事により防災訓練等に近隣の方々の協力を得ている。散歩の際に足を止め談笑されたり、近所の方から野菜を頂いたり普通の近所付き合いをしている。また保育園や小学校とも交流を持ち運動会を見学に行ったり園児達が訪問してくれたりしている。その人を理解することでその人らしさが表現できるような暮らしを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは「希望を実現しよう」という独自の理念を掲げ、職員間で理念を共有し、利用者の望む事の実現に向け一丸となり取り組んでいる。日々の支援では、ホーム周辺の散歩のほか、外食や外出行事の実施等、戸外活動の充実を図り利用者の生活の幅を広げている。また、保育園児や幼稚園児との交流、小学校の運動会への参加など子どもたちとの交流も図られている。地域との関係も良好であり、防災訓練時には地域の方の参加もあり、日頃から連携が図られている。今後に向けては、利用者の健康面の強化に取り組むと共に、自立支援の充実を目指しており、より利用者の生活の幅が広がっていくことが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	そよ風の基本理念でもある利用者様一人ひとりのニーズと意思を尊重し、生活の質と向上に努めている。	「希望を実現しよう」をホーム独自の理念として掲げ、職員間で理念を共有し、利用者の希望が実現できるように一丸となり取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方が、野菜をくださったり、散歩の際に声をかけてくださり、こちらからも地域の保育園学校等の行事にも積極的に参加している。	地域とのつきあいについては、自治会に加入し、定期的に会合に出席するほか、近隣の保育園の行事や小学校の運動会に参加する等、子どもたちとの交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	成年後見人制度の実習生を受け入れたり、地域住民にセンターの行事に参加していただくことにより認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見をもとに、一人ひとりにあった、個別ケアをおこなえるよう取り組んでいる。	運営推進会議には、行政担当者、自治会長、介護相談員、家族の方が参加され、ホームの運営状況の報告のほか、参加者からの質疑応答も受け付け、様々な意見交換を通じ、サービス向上につながるよう取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員の月1回の訪問があり、相談員との意見交換会や研修にも積極的に参加している。	市の担当者との連携に関しては、運営推進会議での連携のほか、運営上の疑問点等が生じた際には、連絡を取り、アドバイスをもらうようにしている。その他、介護相談員の方が月に一度来所される。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センター独自で、身体拘束廃止委員会を立ちあげ、身体拘束廃止にとりくんでいる。	身体拘束の廃止に向け、県が主催する身体拘束廃止に向けた研修に参加するほか、事業所内においても「身体拘束廃止委員会」を立ち上げ、3カ月に一度開催するなど、事業所内において高い意識を持ち取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会への参加を積極的に促している。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修する機会を設け、必要の際にはそれを活用できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて契約書、重要事項を読み上げ、細部についても理解納得を得るように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、ホーム行事で来訪した際に意見要望を聞いている。また、定期的に送付している書類の中にも気軽に意見、要望を言って欲しい旨を伝えている。	事業所内外の苦情窓口に関しては重要事項説明書に明記され、契約時家族に伝えている。また、面会時や、ホーム内の行事の際には、家族からの意向や要望を収集し、運営に反映できるよう取り組まれている。現在、法人側からの家族アンケートの実施が検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会やミーティングなどで、意見を聞く場を作っている他、年に2回センター長との個別面談でも機会を設けている。	職員からの意見に関しては、毎月各フロアごとでミーティングを開き、その中で、意見交換を行っている。その他、年2回センター長との面談があり、職員が記入する自己評価を基に、意見や提案を収集している。	今後に向けては、家族からの意向や要望に関して、所定の用紙に記録を残し、その時の対応方法等が検索しやすい仕組みの強化が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	信頼のおける人間関係の構築や働きやすい職場づくりのために環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修を促し、介護技術の向上のため、介護技術のスキルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他センターへの見学を実施したり、月1回の勉強会に参加している。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活できるような家庭的な雰囲気をつくるようにこころがけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン更新時やご家族様の来所時に希望や要望を伺い、ご家族様にも安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思い、状況等を確認し、訪問介護や訪問リハビリの導入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様から人生の先輩としての意見を伺い生活の中での知恵等を教わる関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの生活習慣をご家族様から教えて頂き、せんたーでのケアに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前に住んでいた家の近所の人を訪ねてくることもある。また、知人への手紙や電話の連絡など馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	馴染みの人や場との関係継続の支援に向けて、これまでの交友関係の継続や手紙のやりとり、家族との外出や一時帰宅を通じ、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のために退去となった御利用者様にできるだけ面会を心掛けた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望が実現できるように努めている。困難な場合でも、表情などから意向の把握に努め、本人本位になるように検討している。	利用者の思いや意向の把握については、日常会話から収集するほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者一人ひとりのニーズや課題を抽出し、抽出結果の分析を踏まえ、ケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族様にどのような生活をしてきたかを伺いその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタルチェックや、日々の体調管理をしっかり行い、生活のリズムを理解するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、居室担当、計画作成、ユニットリーダーなどが参加する担当者会議を開催し、介護計画を作成している。	ケアプラン作成にあたっては、アセスメントで抽出したニーズや課題及び、利用者、家族の要望を踏まえ、担当者会議において職員からの意見を収集し、総合的な意見を踏まえ作成している。また、ケアプランに沿った支援を図るために「介護援助計画」を作成し、日々の支援で活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は毎日記入し、特変のある場合は時系列の記録用紙へ変更し記録を取っている。また外傷の記録は見やすいような人体図への記入をしている。申し送りノートをごまめに活用することにより情報の共有を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問医療、訪問看護、リハビリ、理美容の利用をしている。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加することにより、地域住民による防災訓練の参加を得ることができた。また保育園との世代間交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医を受診している方や月2回の往診医や訪問看護を利用している方もいる。その情報は、御家族様と職員にて共有している。	医療機関との連携に関しては、従来のかかりつけ医を継続する方やホームと提携している月2回の往診医による診療や訪問看護の利用も可能であり、利用者の希望に応じて、適切な医療を受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化など気になる点は訪問看護師屋往診医に相談しアドバイスを頂き適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はこまめに面会へ伺い、本人が不安にならないように支援している。また医師、看護師と情報交換を行い状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が望む場所で最後まで暮らしていくことができるように、本人の意思、並びに家族の意向を最大限に尊重し、医療機関、家族等と協力して対応している。	重度化や終末期に向けた方針の共有に関しては、利用契約時において、重度化した場合の対応方法について説明している。また、重度化を迎えた際には、法人の方針を基に同意を交わし、医療機関、家族と連携を図りながら対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しいつでも見れるように保管している。勉強会を行ったり、外部研修の参加にて職員の共通認識として周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施しその都度火災報知器、消火器の取り扱いの説明を業者にしてもらっている。また近隣の方の支援を得た防災訓練も行っている。	防災訓練に関しては年2回実施している。訓練では、火災通報装置の使用方法、消火訓練、夜間を想定した避難訓練が実施された。また、訓練には、近隣の方も参加され、非常災害時における協力体制が確保されている。	

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の思いや意見を聞き、その人らしく暮らせるような支援をしている。また人格を尊重した対応を心掛け、個人情報についても秘密保持、情報管理の徹底をしている。	利用者のプライバシーを損ねることが無いように、外部講師を招いて「プライバシー保護の研修」が実施された。また、法人内においても同様の研修が実施され、研修内容を職員に伝達し、職員一人ひとりが適切な対応を図れるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択、飲み物の希望、利用者様が自ら選び、自己決定できるような自立支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人日ひとりの生活のリズム、身体状況を理解することにより、利用者様沿ったケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を購入し自らメイクされる方もいる。毛染めをしたり、訪問理美容の活用や、美容院、理髪店への外出もしている。耳掃除、爪切りを行い整容を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様との食事の準備、片づけを行っている。職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしている。	食事に関する一連の作業では、利用者も参加し、職員と共に準備や後片付けを行っている。食事中は職員も食卓を囲み適度に会話を挟みながら、楽しいひと時となるよう取り組んでいる。また、外食や出前の実施、ホーム内でもビュッフェスタイルやデザートバイキングを開き楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の状態を把握し、減塩、刻み、ミキサー食、おかゆでの対応を行っている。食事量、水分量は、記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。御利用者様の状況に応じ、スポンジブラシを利用しケアを行っている。また、訪問歯科による口腔ケア診療も行っている。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて誘導している。尿失禁確認したら、早めの声かけをするほか、水分摂取もこまめにチェックしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンに関しては「排泄チェック表」に記録している。排泄に関しては、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、食物繊維を多くとって頂くようにしたり、散歩や体操によって、体を動かし腸の働きを良くするように、努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日入れる体制をとり、入浴剤でリラックスしながらゆっくりと入っていただけるように心がけている。	入浴に関しては、利用者の希望や要望に応じて入浴できる体制としている。入浴中は職員が見守りにつき、安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操や散歩、レクリエーションなどで適度に身体を動かすことにより、夜間帯、ゆっくりと眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今現在服薬している薬がわかるように、薬表一つのファイルにまとめてあり、薬の変更があれば、ホワイトボードに記入し一目でわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族様の了解のもと、喫煙、飲酒をされたり、また、希望に応じて外食に行き、普段とは違った雰囲気を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた行事を企画し、行政から借りられるバスを利用し、御家族様のご協力の下外出を行っている。また、希望に応じ、映画館に行ったり、買い物へ出かけたりにしている。	外出に関しては、ホーム周辺の散歩や希望に応じて買い物に出かける事ができるよう支援するほか、市のバスを借り、イチゴ狩りに出かけたり、レストランや居酒屋での外食など、戸外での活動を通じ利用者の生活の幅を広げている。	

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方もいらっしゃり、買い物に行かれた際は、できる限り御利用者様に、支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけられるようにしたり、暑中見舞いや年賀状の作成も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、花を絶やさないようにしている。また、リビングや食堂、廊下には季節を感ぜさせる装飾を心掛けている。	玄関先には季節の花が飾られているほか、リビングにも季節を感じられるような装飾を掲示し、明るい雰囲気である。また、ソファを設置し、くつろげる空間を確保しているほか、廊下やトイレも清潔に保たれ、歩行の妨げになるものは放置せず、安全面にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭に、ベンチやテーブルを置き、くつろいだり談笑できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンス、ベット、ドレッサーなどを持ち込まれ、壁には家族やペットの写真が飾られている。ご入居前から、布団で眠られていた御利用者様は、そのまま布団を使用いただいている。	居室内には、これまで使い慣れた家具類の持ち込みが可能であり、家具の配置に関しても、利用者や家族の要望に応じ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に考慮し必要なところには、手すりの取り付けセンター内バリアフリー構造となっている。		